丹波市総合計画 令和5年度 施策評価シート

まちづくりの目標	4	美しい自然と環境を大切にす源流のまち
施策目標	2	【低炭素社会】地球環境にやさしい社会と暮らしを育てよう
施策の展開	① ②	自然エネルギーの利用促進 低炭素社会の実現

施策担当課	環境課
関係課	環境課

1 施策の現状・推移

5年後のまちの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・景観との調和を図りながら、森林資源などの自然エネルギー源を活用し、自立・分散型エネルギーの普及と地産地消が進んでいます。 ・本市の豊かな自然から得られたエネルギーが日常生活や産業に活用され、低炭素社会が実現しています。
----------	---

2 成果指標・コストの推移

		単位	区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
成果指標	住んでいる地域が、木質バイオマスなどの自然エネルギーの活用が以前よりも進んでいると思う市民の割合	%	目標	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
			実績	17.2	21.8	24.6	22.3	17.0	市民アンケート結果より	
	木の駅プロジェクトに参加した兼業農林家数(累計)	人	目標	100	175	175	175	175	175	
			実績	146	174	187	213	250		
市内の太陽光発電の設置件数(累計)	件	目標	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200		
		実績	3,068	3,231	3,364	3,495	3,587			
自然の動植物などの保全に関心がある市民の割合	%	目標	—	—	53.0	56.0	59.0	63.0		
		実績	—	49.3	52.1	53.6	51.8	市民アンケート結果より		
コスト	人件費	千円	実績	24,050	24,245	19,355	9,288	16,739	—	
	事業費	千円	実績	16,175	17,375	14,293	11,885	21,643	—	
	計	千円	実績	40,225	41,620	33,648	21,173	38,382	—	
	うち一般財源	千円	実績	33,213	35,382	28,695	15,578	23,404	—	

3 環境変化

国・県の方針、関連法令の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年に国連が提唱した「持続可能な開発目標(SDGs)」は、気候変動や地球温暖化対策だけにはとどまらない包括的な目標を定め、世界各国が共通して取り組むべきこととして受け入れられている。 ・令和2年10月に菅内閣総理大臣が、所信表明において「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」と宣言し、環境省では、地方自治体のゼロカーボンシティ宣言とその具体的な取組を呼び掛け、制度的に後押しする体制を整えている。 ・国の第五次環境基本計画では、各地域が自立・分散型の社会を形成し、地域資源等を補完し支え合う「地域循環共生圏」の創造を目指している。令和5年度から第六次計画の策定が進められ、環境・経済・社会が統合的に向上する持続可能な社会の姿の議論がなされている。 ・国の生物多様性戦略が改定され、自然資本を守り活かす取組などを含む「ネイチャーポジティブ(自然再興)の実現」を目指している。
市民ニーズの動向	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度の第2次環境基本計画改定の際に実施した市民アンケートでは、地球温暖化問題について、「よく知っている」、「聞いたことがある」を合わせると、96.3%に達している。具体的な取り組みとしては、「節電」(66.8%)、「クールビズ・ウォームビズ」(27.0%)が大半を占めている。次いで、「太陽光や太陽熱の設備導入」(15.3%)、「自動車の相乗り、公共交通機関の利用」(4.6%)となっている。 ・上記の市民アンケートでは、住まいの周辺の自然環境について、「満足」、「どちらかといえば満足」を合わせると、76.3%の結果だった。その理由としては、「身近なところに自然とふれあえる里山や河川などがある」(77.7%)や「農地や山林が豊かである」(53.3%)が多い。

4 評価

目標の達成状況は順調か。達成していない原因は何か。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度市民意識アンケートの結果によると、自然エネルギーの活用が進んでいると思う市民の割合は、前年度比で5.3%減少し17.0%となっている。自然エネルギー(木質バイオマスや太陽光等)に聞きなじみがないことや薪ストーブの広まりが認知しにくいことが影響していると考えられる。 ・丹波市の「木の駅プロジェクト」の参加者数は年々増加している。木の駅実行委員会の活動や森林環境の保全への関心の高まりによるものと考えられる。 ・自然の動植物などの保全に関心がある市民の割合は50%台で推移している。青垣いきものふれあいの里などで企画展や事業を実施しており、50%台を維持しているが、増加にはつながらなかった。
環境変化を踏まえた施策展開となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の保全と創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、平成29年度に第2次環境基本計画を策定した。令和3年度には、計画期間の中間年を迎え、自然環境や社会経済情勢の変化に合わせて数値目標等を見直し、同計画を改定した。 ・木質バイオマスエネルギーの活用に向け、丹波市木の駅プロジェクトの取組を支援し、森林整備による間伐材の搬出を促した。また、地産地消による循環型社会の実現するため、薪ストーブ・薪ボイラーの導入促進を図った。 ・令和4年12月27日に「丹波市ゼロカーボンシティ宣言」を表明した。地球温暖化対策実行計画の策定に向けて、令和5年度に再生可能エネルギー導入可能性調査を実施した。また、自然エネルギーの活用も含め、身近なところから実践できる丹波市ゼロカーボンアクションを活用した啓発活動を実施した。 ・氷上回廊HPでは、毎年、特集記事を1~2本掲載しており、令和5年度はバイオマスとセツブンソウの記事を掲載した。
事業の構成や役割分担で見直しの余地がないか。	市民、事業所、市が一体となり、それぞれの立場から参画と協働の取組を行うことを基本として施策を進める。

5 今後の改革方向

施策の今後の方向性、構成する事務事業の見直し案	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の保全と創造に関する施策を総合的、かつ計画的に推進するため、第2次環境基本計画に基づき事業を展開する。 ・自然エネルギーの活用については、引き続き、木質バイオマスエネルギーの利活用を進める。林地残材を加工した薪を使い、化石燃料からの転換を図ることで、エネルギーの地産地消による循環型社会の実現を目指す。そのため、薪ストーブ・薪ボイラーの導入を進める。 ・丹波市ゼロカーボンシティの実現に向け、令和6年度に丹波市地球温暖化対策実行計画を策定する。また、引き続き、丹波市ゼロカーボンアクションの普及啓発に向けて取り組む。 ・氷上回廊や市内の希少な動植物について、活動やホームページ、広報等とおして知らせていくことで、本市の多様な生態系を市民に伝え、その保全に対する関心を高めていく。
-------------------------	---

丹波市総合計画 令和 5 年度事務事業評価 / 令和 6 年度実施計画

事務事業名	環境施策推進事業		
事業担当課	生活環境部 環境課	事業期間	平成 16 ~ 無期 年度
	所属長 澤田 知寿	担当 足立 幸一	担当 村上 寛幸

位置づけ	総合計画	まちづくり目標	【4】美しい自然と環境を大切にする源流のまち
		施策目標	2【低炭素社会】地球環境にやさしい社会と暮らしを育てよう
	創生総合戦略	基本目標	【4】好循環で元気なまちをつくる
		施策	【4-2】 元気な地域が元気なまちをつくる
	まちづくりビジョン	取組項目	(8)地域に根ざした生業
	根拠法令・個別計画等	丹波市環境基本条例、第2次丹波市環境基本計画（改定版）、丹波市地域新エネルギービジョン	

計画 (PLAN)	事務事業	対象（誰を、何を）	市民、自治会、事業所	
		目的 ベストな状態 (期待される効果)	<ul style="list-style-type: none"> 生物多様性の認識が広がり、自然環境を保全する活動が活発になり、豊かな生態系が保全されている。 地球温暖化防止の取組があらゆる場面で進み、脱炭素社会が実現している。 太陽光等の自然エネルギーの活用により、自立・分散型エネルギーの普及が進んでいる。 豊かな自然（木質バイオマス等）がエネルギー（燃料）として活用され、エネルギーの地産地消の循環型社会が実現している。 	
		概要 (具体的手段・全体計画)	<ul style="list-style-type: none"> 市環境審議会や環境施策推進会議の開催 環境基本計画に基づく施策の推進、環境報告書の作成と公表 丹波市ゼロカーボンアクションを活用した地球温暖化対策の啓発 木質バイオマスエネルギーの利用促進のために活動しているグループへの活動支援 薪ストーブ・薪ボイラー等の普及推進（薪ストーブ・薪ボイラー設置補助金） 市内に棲む生き物の把握、「氷上回廊」ホームページの運用による生物多様性保全の発信 	
		令和5年度の 事業概略	<ul style="list-style-type: none"> 第2次環境基本計画の進行管理 「氷上回廊」ホームページ管理・運用 地域おこし協力隊制度を活用した生物多様性の啓発 薪ストーブ・薪ボイラー設置補助 E V車急速充電器の維持・管理 地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定に向けた、再生可能エネルギー導入可能性調査 	令和6年度の 事業概略

コスト（単位：千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
歳出	総事業費 A + B	40,225	41,620	33,648	21,173	38,382	37,017	
	直接事業費 A	16,175	17,375	14,293	11,885	21,643	20,278	
	総人件費計（E + H） B	24,050	24,245	19,355	9,288	16,739	16,739	
	職員従事者数（人・年） C	3.25	3.25	2.54	1.25	2.22	2.22	
	【平均人件費】 D	7,400	7,460	7,620	7,430	7,540	7,540	
	人件費 E = C × D	24,050	24,245	19,355	9,288	16,739	16,739	
	会計年度任用職員従事者数（人・年） F	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	【平均人件費】 G	2,000	2,360	2,360	2,530	2,730	2,730	
人件費 H = F × G	0	0	0	0	0	0		
歳入	特定財源	7,012	6,238	4,953	5,595	14,978	5,819	
	国・県支出金	0	0	0	0	0	0	
	借入金（地方債）	0	0	0	0	0	0	
	受益者負担金	0	0	0	0	0	0	
	その他特財	7,012	6,238	4,953	5,595	14,978	5,819	
一般財源	33,213	35,382	28,695	15,578	23,404	31,198		

実施 (DO)	指標名	単位	目標	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
			実績							
成果	自然の動物や植物などの保全に関心がある市民の割合	%	目標	-	-	53.0	56.0	59.0	63.0	令和5年度市民意識アンケート結果より
			実績	-	49.3	52.1	53.6	51.8		
成果	市内太陽光発電の設置件数（累計）	件	目標	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200	令和5年12月時点
			実績	3,068	3,231	3,364	3,495	3,587		
成果	自然エネルギーの活用が進んでいると思う市民の割合	%	目標	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	令和5年度市民意識アンケート結果より
			実績	17.2	21.8	24.6	22.3	17.0		
成果	木の駅プロジェクト参加者数	件	目標	100	175	175	175	175	175	
			実績	146	174	187	213	250		
コスト			目標							
			実績							
指標の推移等の背景・分析			<ul style="list-style-type: none"> 自然の動物や植物などの保全に関心がある市民の割合について、青垣いきものふれあいの里や氷上回廊見分れフィールドミュージアムで定期的に企画展や事業が行われており、50%台前半で推移している。 市内太陽光発電の設置件数（累計）について、毎年、増加している。 自然エネルギーの活用が進んでいると思う市民の割合について、これまで20%台前半で推移していたが、5%程度下がった。自然エネルギー（木質バイオマスや太陽光等）に聞きなじみがないことや薪ストーブの広まりが認知しにくいことが影響していると考えられる。 木の駅プロジェクトの参加者数について、同実行委員会の活動などにより、増加につながったと思われる。 							

事務事業名	環境施策推進事業		
事業担当課	生活環境部 環境課	事業期間	平成 16 ~ 無期 年度

事務事業全体の実施（DO）に対する、事務事業の展開の評価・課題について						
評価 (CHECK)	評価視点	評価	理由・コメント	評価視点	評価	理由・コメント
		(必要性) 市民にとって必要な事業か。	A	市内における豊かな自然環境の保全、地球温暖化防止活動の推進、新エネルギーの導入や省エネルギーの啓発等を行い、市民が住みやすい環境とよい生活環境を守り、持続可能な地域社会を創造していくため必要である。	(コスト) 改善・改革等により更に低コストで実施できないか。(サービス・成果は維持)	B
(効果性) 成果につながっているか。進捗は予定どおりか。※成果指標に対する評価		B	市民アンケートにおいて、生物多様性の保全に関心のある市民の割合は50%台前半で推移しており、目標には届いていない。また、薪ストーブ設置件数や太陽光発電の設置件数が増加しているものの、自然エネルギーの活用について、実感している市民の割合が増えている。継続的な生物多様性や自然エネルギーに関する啓発が必要である。	(公平性・受益者負担) 公平性に問題はないか。受益者負担検討の余地はないか。	A	薪ストーブ・薪ボイラーの設置補助については、要綱を定め補助率、限度額を設定したうえで補助している。

総合的な評価と課題（成果の達成状況及び評価結果から明らかになった課題事項など）																																							
改革 (ACTION)	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物多様性や自然環境の保全について、市内関係部署や保全団体と連携を図りながら実施している。氷上回廊に代表される生物多様性や豊かな自然環境などを地域の資源として、保全・活用を進めるとともに、その活動等を周知していく必要がある。 令和4年12月27日に本市では「丹波市ゼロカーボンシティ宣言」を表明した。脱炭素社会の実現を目指し、自然エネルギーの利活用や省エネ活動等の周知・啓発等の取組を行う必要がある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然エネルギーの推進について、特に木質バイオマスエネルギーの利活用を進めるため、薪ストーブ・薪ボイラーの導入を支援し、エネルギーの地産地消による循環型社会の実現を目指している。薪ストーブ・薪ボイラーの設置費用が高額になる傾向があり、設置補助を行っているが、設置件数の急激な増加は見込めない。 脱炭素社会の実現に向けて、木質バイオマスや太陽光などの自然エネルギーの利活用を進める必要がある。 																																						
	<p>今後の方向性・改善策等</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境の保全と創造に関する施策を総合的、かつ計画的に推進するため、第2次環境基本計画（改定版）に基づき事業を展開していく。 生物多様性の保全について、引き続き、関係部署や保全団体との連携を図りながら、市内の自然環境や氷上回廊の周知啓発に取り組む。 自然エネルギーの推進については、引き続き、木質バイオマスエネルギーの利活用を進めるため、薪ストーブ・薪ボイラー導入促進に取り組む。また、太陽光発電などの自然エネルギーの利活用の普及啓発に取り組む。 ゼロカーボンシティの実現に向け、令和5年度に実施した再生可能エネルギー導入可能性調査の結果に基づき、令和6年度に地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を策定する。 																																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="4">成果・コストの方向性</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>皆減</th> <th>縮小</th> <th>現状維持</th> <th>拡大</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">成果の方向性</td> <td>拡充</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>✓</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="6" style="text-align: center;">コスト投入の方向性</td> </tr> </tbody> </table>			成果・コストの方向性						皆減	縮小	現状維持	拡大	成果の方向性	拡充				✓	現状維持					縮小					休廃止					コスト投入の方向性				
		成果・コストの方向性																																					
		皆減	縮小	現状維持	拡大																																		
成果の方向性	拡充				✓																																		
	現状維持																																						
	縮小																																						
	休廃止																																						
コスト投入の方向性																																							

●構成する予算小事業一覧

(単位：千円)

No.	予算小事業	コスト（評価年度は実績、計画年度は予算）					備考
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1	環境施策推進事業	2,493	7,050	6,374	5,164	6,176	
2	新・省エネルギー普及事業（R6より地球温暖化対策推進事業）	14,882	7,243	5,511	16,479	14,102	
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
合計		17,375	14,293	11,885	21,643	20,278	

●外部評価 【 】年度実施

指摘事項など	対応状況